

学校園名	宝塚市立仁川幼稚園	校園長名	古 芝 道 敏
------	-----------	------	---------

1 学校教育目標

心豊かに たくましく生きる子どもの育成 ◇自己を発揮し、明るく元気に遊ぶ ◇心を動かし、互いに思いやり支え合う	◇力いっぱい挑戦し、最後までやり抜く
---	--------------------

2 重点目標

- 主体的に考え、活動する幼児の育成に努める。 - 豊かな感性を育み創造力、思考力、道徳性の芽生えを培う。 - 安心・安全な幼稚園づくりに努め、基本的生活習慣と態度を育成する。 - 幼稚園と家庭、地域、保育所及び小中学校との連携を密にし、相互理解を深める。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた幼稚園づくり	- 情報発信 - 園庭開放 - 保護者の保育参観、行事への参加 - オープンスクール開催	B	○ 毎日のスライドショーで園児の様子を放映すると共に、週3回のお迎え広場の実施を継続した。 ○ 保育参観、行事参加を実施し、多くの方に園児の様子や一年を通して成長した姿を見ていただいた。 ○ ドキュメンテーションを活用し、保護者に園児の様子や育ちを配信したり、掲示したりして情報発信に努めた。 ● ホームページの更新に努めたが、十分とは言えなかった。次年度の課題としたい。	・保育の様子を玄関先のスライドショーやコドモン等で写真配信して子どもたちの様子を知ることができた。また、お迎え広場では、直接、担任から当日の保育の様子を聞くことができた。 ・保護者への情報配信、参観行事参加も十分にできていると感じる。参観やオープンスクール、行事などへの参加が平日にもかかわらず、保護者の参加が多く、園の努力に対して、保護者の満足度が高いと感じられた。
	安全危機管理体制整備 保健衛生管理	・安全・防災対応 ・安全点検 ・衛生管理 ・個人情報の保護	A	○ 親子で交通安全教室を開催できた。 ○ 安全・防災マニュアルに基づき全職員で共通理解を図りながら、様々な想定で避難訓練を定期的に実施した。 ○ 猛暑対策として、ミストシャワーを設置した。また、運動会に向けてグラント整備を行った。 ○ 発達段階に応じた手洗い・うがい指導等、各種保健指導に努めた。 ○ 日々の安全点検を行い、点検結果の共有を毎日の職員朝会でやっている。	・交通安全教室や各避難訓練で子どもたちの安全危機管理が徹底されていた。施錠や見守りの対応もありがたい。 ・猛暑対策としてミストシャワーを設置したり、園庭のコンディションが悪く、運動会の練習がしにくい時も、仁川小の運動場を借りる対応ができており支障を最小限に留めることができた。また、小学校との連携・交流にもつながっている。運動会ではPTAの協力で防犯対策が徹底できた。 ・適切な保健指導で今年度は学級閉鎖も少なかった。
	教職員の資質向上	・教職員が明確な課題意識をもった学び合い ・教職員の連携 ・深い幼児理解 ・保育カンファレンスの充実 ・ICTの活用	B	○ 日常的に保育カンファレンスを実施し、幼児の「自分からやってみる・決める・つながる」が溢れる保育に努めた。今後も今日の保育の振り返りと明日の保育の見通しを明確にしながら教師間で連携して保育にあたる。 ○ 日常の保育やキラキラタイム(遊びの振り返り)にICTの活用を推進した。 ○ 年間3回の園内研究会で公開保育と講師による指導助言の場を設定し、研究目標に沿った保育実施に向けた、職員研修を深めることができた。 ● 近隣保育園や小学校との教員同士の授業参観や研修会などの交流を、計画的に実施していきたい。	・教員は多忙な中、振り返りや準備に多くの時間を割いていると思った。また、園内外の研修にも参加していることが分かった。そのことが、日々の保育に反映されているのが分かる。 ・多忙な中、教員が余裕をもって日々の保育や研修に取り組めるよう、雑用などを担う、事務員のような人がいればよいと思う。 ・近隣の保育園や小学校との教員同士の交流は、ぜひやってほしいと思うが、時間的に難しいことが現実なので、無理のない範囲で少しずつ実施してもらえたら嬉しい。

教育課程	幼児期にふさわしい生活の工夫	・ 3・4・5歳児の発達年齢に即した主体的に学ぶ力や人とつながる力の育成	A	○ 3・4・5歳児の縦のつながりを大切にしたい保育内容の実践に努めている。憧れや意欲、思いやりの気持ちにつながっている。 ○ 幼児の興味関心に沿った遊びの環境の充実に努め、主体性を引き出せるよう取り組んだ。自分たちで遊びや生活を進めていこうとする気持ちにつながっている。	・異年齢交流が活発で、その中でもそれぞれの発達段階に応じたアプローチができていて、子どもたちの成長につながっている。仁川幼稚園の3年保育のよいところだと思う。 ・異年齢の子どもたちもみんな仲が良く、ほほえましい。 ・5歳児のリーダーシップが育っていてすばらしい。
	基本的生活習慣の育成及び道徳性の芽生えの育成	・生活習慣の確立 ・発達に応じた道徳性の芽生えの育成	A	○ 衣服の着脱や身辺整理、遊びの片付け、食事等、家庭とも連携しながら進めていくことで、自分のことは自分でしようとする心や態度が育ってきている。 ○ 困ったことがあっても、仲間と助け合い支え合って乗り越えようとする気持ちが5歳児を中心に育ってきている。	・教員の子どもたちへの声掛けが素晴らしく、それによって子どもの自主性が育っていると感じる。 ・園だよりの「レッツチャレンジ」の各クラスの成長が楽しみ。「できた」「できるよ」の喜びを、いつもありがたく思う。少しずつ成長した1年だった。
	人権教育の推進	・ 幼児期にふさわしい人権意識の育成	B	○ 一人一人の良さを見つけ、認めるようにしている。そのことで自尊感情が育ち、友達も大切にしようとする心を育てていく。 ○ 日常の何気ない遊びや生活の中で起こる問題に（言葉の暴力、決めつけ等）まず教師が気づき、子ども自身が振り返り考えられるような支援に努めた。また、そのことをカンファレンスで伝え合い日々の保育に活かせるように努めた。 ○ 異年齢交流を通して、思いやりの気持ちやあこがれの気持ちが少しずつ遊びや生活の中で育まれてきている。個の自立と共に仲間と支え合う関係性がさらに広がり、深まるように努めたい。	・子どもたちの会話や姿を見ていると、一人一人の良さを見つけられていると感じる。また、教員も一人一人をきちんと認めるような声掛けがされている。 ・クラスで問題があると、教員は敏感に感じ取り、迅速に対応している。 ・子どもたちが、みんなで仲良くできていることが、人権意識が育っていることの証明になっていると思う。のびのびと子どもたちが過ごせる環境が整っていると感じる。
課題教育	校種間連携	・ 近隣保育所・小学校との交流	B	○ 5歳児が仁川小学校との生活科、国語科、体育科での児童と園児の交流や図工展見学、給食交流、栄養教諭による食育出前授業の実施や、第一中学校のトライやるウィークで、小学校への期待や小中学校の先生やお兄さんお姉さんへの親しみや憧れの気持ちにつながっている。 ○ 仁川ウエル保育園とはプレ1年生の実施や定期的な交流を継続している。 ● 交流については、年度初めに年間を通した計画を立て、互いがゆとりをもって実施できるようにしていく必要がある。 ○ 宝塚第一中ブロックの管理職連携協議会を定期的にもち情報交換を行うことができた。	・小学校入学へのイメージや期待につながる取り組みはありがたい。子どもたちの進級する小学校は複数校あるが、どの学校とも交流することは、時間的にも距離的にも現実的ではないので、仁川小と一中との交流でよい。 ・他の保育園との子どもたちの交流は子どもたちにとって良い刺激になっていると思う。同じ小学校に通う子どもたちと顔見知りになることで、小学校での生活にスムーズに移行できることが期待できると思う。 ・一中のトライやるできた生徒との交流が子どもたちの印象に残っており、憧れの気持ちに繋がったのではないかな。
	特別支援教育の充実	・ 個別的教育支援計画指導計画に基づいた幼児の発達に即した支援内容の工夫	C	○ 特別支援教育園内委員会で支援を要する子どもたちの実態について共通理解し、具体的な目標や手立てについて協議し、共有することができた。また、就学に向け、保護者への呼びかけや小学校との引継ぎ連携に努めた。 ○ 療育施設と連携し、訪問指導の機会を捉えて情報共有をしたり、ふさわしい支援について協議したりすることができた。 ○ 巡回相談を活用し、専門性をもつ相談員に園児の様子を見てもらい、見立てや支援のアドバイスを受け、教員の幼児理解や個々の支援に生かすよう努めた。	・昨今、公立幼稚園には特別な支援を必要とする子どもが多く入ってきているように感じる。現状に合わせて、もっと加配の先生を増やすなど、柔軟な対応が必要だと思う。 ・近年、支援を要する子どもが増えている。保育の中で気付いてもらえ、就学のタイミングで対応できたという話を聞く。保護者にとっても子どもにとっても良いことだと思う。

独自項目	子育て支援の推進	・預かり保育の充実 ・子育て相談の充実 ・学びの場の提供 ・未就園児親子の支援	B	● 保護者のニーズに沿えるよう、マニュアルに則りながら、できる限り預かり保育を実施したが、実施できない日も複数日あった。 ○ PTAと協力して「なかよしひろば」「ふれあい学級」を実施し、未就園児親子も参加して楽しい集いの場となった。 ○ アプリでのドキュメンテーション、おたより、個人懇談等で、個や集団の育ちについて発信し、保護者と共に考えることができるよう努めた。 ● 子育てについて保護者が相談しやすい関係作りに努めていく。	・未就園児が参加できる機会をたくさん設けていて、大きく門戸を開いている。ただ、園児の兄弟以外の未就園児に親子にもっと認知されるとよい。 ・預かり保育可能日が限られている月もあったが、教員の研修や行事、キッズサポーターの不足の現状があり仕方ない。その中で教員は、自分の仕事時間に交代で入っている。 ・登降園時やお迎え広場、参観日などに教員から声をかけてくれ話しやすい。
	地域連携	・まちづくり協議会等地域組織との連携	B	○ 地域の太鼓の先生に指導に来ていただき、5歳児を中心に「にがわっ子太鼓」の取組が定着してきた。また、関西棋院の棋士の先生による囲碁教室も園児たちの楽しみとなっている。 ○ ハイキング、祭り、とんど、等、地域・保護者の協力により、子どもたちの体験が広がっている。 ○ 地域のみんなの先生による和太鼓、手品、琴などの温かいかわりを今後も継続し大切にしていく。	・太鼓や囲碁、琴など、様々な先生と出会う、良い経験をさせてもらっている。 ・幼稚園を支援する人の輪が広がっているように思う。地域に根差した幼稚園作りができていると思う。 ・年間を通して、いろいろな行事があるが、教員の負担も大きいと感じる。子どもたちは幼稚園でのいつもの遊びも大好きなので、無理のないようにしてもらえたらよい。毎年、全イベントでなくてもとの声もある。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・保護者アンケートの結果が反映された幼稚園の自己評価を基にして、学校関係者評価委員会で顔を合わせて協議するという適切な方法で、実施できている。
- ・各項目において達成状況と、なぜその評価になったのかが分かりやすくよい。
- ・評価項目もすべてが網羅されていて妥当な項目だと思う。
- ・アンケートの回収率が100%であり、アンケートが機能している。
- ・保育の様子を見られたことがよかった。

6 総合的な学校関係者評価

- ・個別の支援を必要とする子どもたちが多く、9名の教員で園児一人一人をととてもよく見てくれていると感じている。保護者に対しても、子どもや家庭での困り事にも必要に応じて対応している。教員全員が、通いやすいあたたかな空気を作ってくれているので、今年度も安心して通園できた。ただ、一方で、教員の負担が大きすぎるのではないかと感じている。もう少し、改善できる部分があるのではと思う。
- ・仁川幼稚園の教員はPTAにも丁寧に対応し、嬉しく思う。子どもだけでなく保護者のこともよく見てくれている。
- ・保護者と積極的に連携を取りながら、子どもたち一人一人の個性をよく理解し、対応してくれている。子どもたちに遊びの場や学びの場をたくさん提供し、子どもたちが地域の方に見守られながらすくすく成長している。その様子を保護者にも丁寧に伝えているので、安心して園に通わせることができている。
- ・仁川幼稚園はできる限りの努力をしていると思う。
- ・個人的には評価はもっと高くてもよいと感じた。